

公金管理業務のDX推進について

区の公金管理業務が置かれている現状を踏まえ、区民等の利便性向上及び区と指定金融機関の公金管理業務の効率化を図るため、公金管理業務のDX化を推進します。

1 公金管理業務の現状について

(1) 手数料引上げの可能性

区の公金は、指定金融機関であるみずほ銀行を介して、区の口座から出入金され、現状、区と指定金融機関の間の出入金の指示は紙で行われています。

現在、指定金融機関をはじめとする金融機関からは、こうした人手を必要とする業務について、各種手数料の引上げを求められており、令和9年4月には窓口収納手数料の大幅な改定を要請されています。

(2) 派出業務の縮小

近年の金融機関のビジネス形態の変化や事務職員の減少を受け、指定金融機関からは、出納業務の一部委託事業を今年度末で終了すること、及び本庁舎1階の派出窓口（指定金融機関窓口）を令和8年度から段階的に一人体制又は無人化へと進めていく意向が示されています。

(3) eLTAXを導入できる公金の範囲の拡大

令和6年6月に地方自治法が改正され、これまで導入が地方税に限られていたeLTAXの仕組みが税以外の全ての公金にも導入可能となり、令和7年2月には、国から具体的な導入方法等が一部示されました。

2 具体的な取組の方向性について

上記の現状を踏まえ、公金管理業務のDX化を推進するため、令和9年4月からの運用開始を目指し、以下の取組を進めます。

- (1) eLTAX（納入通知書へのeL-QRコードの印刷）の仕組みを可能な限り多くの公金に導入するとともに、港区口座への入金仕分けを自動化します。
- (2) 公金管理業務における紙の使用を可能な限り廃止し、庁内での公金管理業務を効率化します。
- (3) 派出窓口の縮小や廃止に備え、現金や紙の取扱いを最小限にする業務フローを構築します。

3 取組の効果について

- (1) 納入通知書に印刷されたeL-QRコードをスマートフォンで読み込むことで、スマホ決済、クレジットカード決済、ネットバンキングによる支払いが可能となり、24時間どこでも決済可能となるため、区民等の利便性が大幅に向上します。
- (2) eL-QRコードの付与された納入通知書は、銀行の窓口で受け付けた場合でも窓口収納手数料が不要です。このため、今後窓口収納手数料の大幅改定があった場合においても、区の財政負担を軽減できます。
- (3) 紙による公金管理業務が無くなることで、事務処理が効率化されるとともに、会計事務の確実性及び迅速性が高まります。
- (4) 真に人手や対面での対応が必要な業務に人員を振り向けることが可能になります。

4 今後のスケジュール（予定）

令和7年6月 令和7年第2回港区議会定例会に補正予算案を提出
8月 委託契約締結（令和8年3月末までの履行期間）